

つむぐ会だより

令和5年度第3回介護と医療をつむぐ会
市民公開講座「流山市でおひとりさまになっても最後までご機嫌に過ごす！備えについて語り合おう」(R5.11.18)

第4回介護と医療をつむぐ会 (R5.12.14)

開 催 報 告

No.25 令和6年2月発行 ●発行/流山市 ●編集/介護支援課

令和5年度第3回介護と医療をつむぐ会 市民公開講座

「流山市でおひとりさまになっても最後までご機嫌に過ごす！備えについて語り合おう」

令和5年11月18日(土)初石公民館にて「市民公開講座」を開催いたしました。当日は74名の参加をいただき、元気に自宅での生活を考えるうえで必要となる専門職の役割等について講師の方々からお話しいただきました。



講師：在宅医療・介護の専門職

いけだ内科小児科クリニック	医 師	池田郁雄氏
たつみ訪問歯科クリニック	歯 科 医	皆川竜身氏
みずき薬局平和台店	薬 剤 師	高杉 幹氏
みのり訪問看護ステーション	看 護 師	中村 恵氏
ナーシングプラザ流山	作業療法士	新井 祐介氏
エール居宅介護支援事業所	介護支援専門員	岡村 佳恵氏
流山市成年後見推進センター	社会福祉士	桃井 厚史氏
流山市東部高齢者何でも相談室	センター長	崎尾 直子氏
(コーディネーター)		
流山市中部高齢者何でも相談室	センター長	土谷 しのぶ氏

在宅療養を支える関わりについて伝えたいこと、覚えて帰ってもらいたいことを話していただき、その後、市民の皆様の疑問・質問に対しパネリストが答えるスタイルで行いました。70代から80代の参加者が多く、在宅で受けられる支援を知ることで安心感を得られた。今後について考える機会を得た。おひとりさまになっても心配ないと思った。等のご意見をいただきました。詳しくは3月発行の「おうち療養情報紙」で紹介させていただきます

令和5年度第4回介護と医療をつむぐ会

「介護の舞台裏～訪問介護員の迷い・モヤモヤ」

令和5年12月14日(木)流山エルズにて医療・介護の専門職を対象に研修会を開催し42名の参加者がありました。



在宅高齢者の身近な存在でありながら、現場の状況や、課題について関係者間での共有、理解が十分ではない訪問介護員の急変対応の場面における現実を聞きました。訪問介護員は「生活の支援者」であり医療的判断はできないため急変時には医療関係者に判断を仰がなければならない。実情が知られていないため過度な期待をかけられてしまい、それが重荷となり足かせとなってしまおうという現状が語られました。

グループワークでは、「在宅高齢者の急変時の判断」について考えました。在宅高齢者の急変時の設定を用意し、急変時の対応をする中で下した判断、行動について躊躇してしまう問題・課題・解決策は何かを考え、活発な意見交換がなされました。その中でも参加医師から、容体がおかしいと感じたら「普段からの様子、いつから、なのか、普段とどのように違うのか時系列に伝えてくれるとわかりやすい」「判断が過剰となってもいいので救急車を呼ぶことをためらわないでほしい」との意見が出されました。

アンケート抜粋

他職種の本音を聞くことができた
現実的な想定をもとに話し合えたので、具体的な解決策を話し合うことができた
救急搬送の迷いが消えた
他職種の支援に関して悩むところを話し合えたのがよかった

今後つむぐ会を通して、他職種理解、情報共有、協同した関係作りを推進していけたらと考えております。